



日本環境教育学会 関西支部 通信

No.20

第32回 関西ワークショップ案内

テーマ 「女性・環境・開発」

話題提供 横村久子さん(奈良文化女子短期大学)

日時: 4月23日(土) 午後2時30分~5時

会場: 大阪教育大学 天王寺分校 S4教室(本館1階)

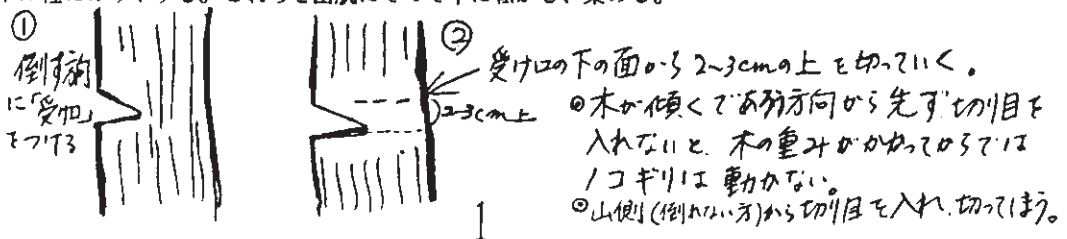
第31回ワークショップ報告 -木の切り出し体験記-

2月26日、南河内水と緑の会の案内と指導のもと、「炭焼き用の木の切り出し」の作業体験をした。参加者は15名、これまで木を切ったことの無い人がほとんど。私も、未経験者の一人。行きの電車の中で、一体、木は谷側に倒すのか、山側に倒すのか、など作業風景を想いめぐらせていた。

富田林駅から、車で20分ほど東に走った所、大阪府河南町持尾地区の里山に着いた。木を切る現場は急斜面であるが、足元の土がふかふかして登りやすい。

南河内水と緑の会のメンバーの笠原さん、大亦さん、平尾さんが木の切り方の説明をして下さった。私の最初の疑問はすぐ解けた。木は重力に従って倒れる。その方向が作業に適していなければ、あらかじめ、梢にロープをひっかけ、倒したい方向に引っ張りながら倒す。自然にまかせれば、木がどの方向に倒れるのかを予想できなければ、この作業はできないし、第一、木を切る本人も危険である。枝の張り出している方向に重心が寄っているの、枝の伸び具合を見て、一本一本の木の倒れるであろう方向を見定めねばならない。重心云々という話が出なかったが、このような説明を聞いてはじめて、「力のモーメント」という中学校理科での学習内容が思い出された。

切り口の付け方は、図のような手順で行う。受け口を付けた後は、谷側(木の倒れるであろう方向)の方からある程度切っていかなければならない。何故か。これも体験をすると笑話になる。木が傾き始めると、切り口が狭まり、ノコギリの歯が狭まり動かせなくなるからだ。実際にノコが動かなくなった場面もあった。私の頭の中には、山で木を切るという作業に理科の知識を応用しようという意識は毛頭無く、改めて教室での学習は何だったのだろう、と考えさせられた。木を倒した後は、枝を払い、1メートル程にカットする。これら山肌にとって下に転がし、集める。

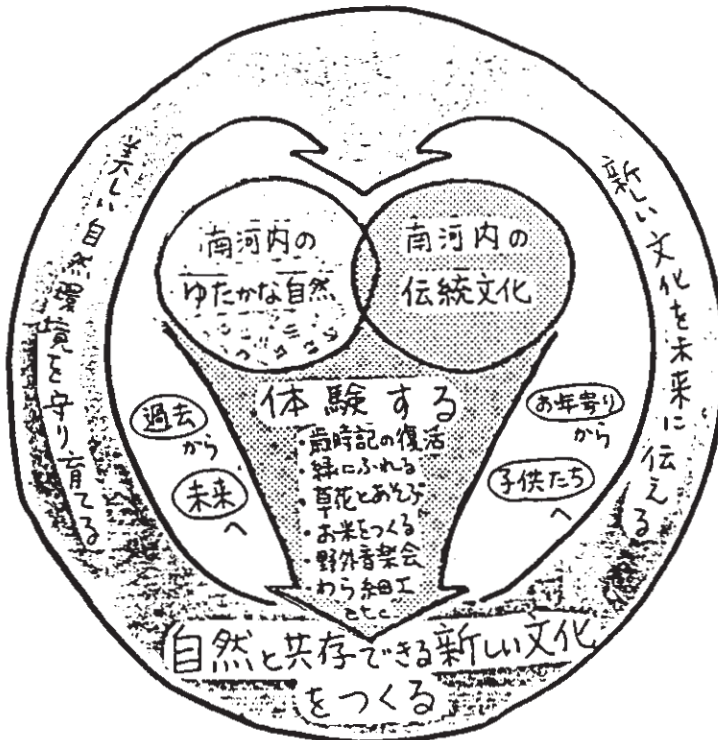


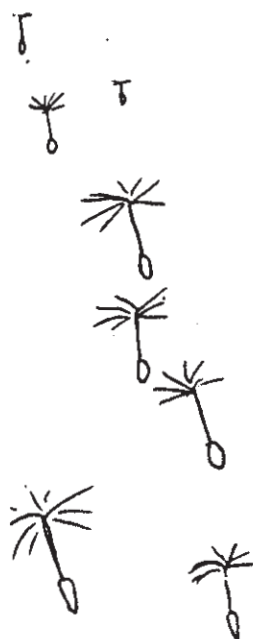
午前中の2時間と午後2時間の作業は、あっという間に終わった。色々な説明を聞き、順番に手ほどきを受けながらの作業であり、山仕事の本当の厳しさとは程遠いのであろう。しかし、町中でのせわしない仕事とは、一味ちがうのである。木を切ったり、木が倒れるまでの一定の時間、人は待たねばならない。また、カットした木を、足元を確かめて持ち上げ、運ぶという作業中に流れる時間は、人間の体の中に流れる時間のリズムに合っているようにも感じた。「機械は、人を、肉体の苦しみを伴う労働から解放してくれた」かも知れないが、「機械の使用による、作業のスピードアップは人を疲れさせる」のではないかなど、いろんなことを考えさせられた1日であった。

紹介せねばならない人がもう一人いる。午後からかけつけて下さった南河内水と緑の会のメンバーの塩路さんである。作業についての豊富な経験、技術はもとより、柏原市国分から、自転車のペダルを1時間半踏み、作業をしていた山の上まで自転車で上がられたというのが驚きだった。その日が特別なわけではなく、私なら、自動車を使うことしか思い浮かばない距離も自転車で移動するのだから……。本当のECOLO人だと思う。(原田智代)

♣ 南河内水と緑の会プロフィール ♣

葛城山麓、南河内郡河南町持尾の標高350メートルの丘に、炭焼窯をもつユニークな市民団体。夏はこの地で水田を借りて、無農薬の米づくりもする。先ずは農の自然体験をするということが、会員すべてのモットーだ。今ようやく注目され始めた里山保全に早くから取り組んで、去年は“どんぐりまつり”の一翼を担って、府下の自然保護団体との交流も活発にしている。一方、公共的な緑地空間を市民の環境学習の場に育てようという提案もし、地域の中で未来の夢に向けて意欲満々。いかにも21世紀らしい若いエネルギーが感じられる。





川に おちるな
 おーい ぽんたぽん
 おーい ぽんたぽん
 おーい ぽんたぽん
 おーい たぽんたぽん
 みんな 名まえがあるんだ
 ひとつひとつ
 たくさん とんでいく
 たんぽぽが

たんぽぽ

かわさき ひろし

小学校1年生のある学級でこの詩の授業をさせてもらった。「言葉」の習得数の少ないこの年齢の子供達にとって、大きな声で何度も何度も読むことは「言葉」を獲得していく上で大切なことである。一見、単純に見えるこの「読む」ことが言語感覚を磨き、「言葉」の持つリズム、イントネーション、アクセント、プロミネンス等が一挙に子供達の中に入っていく。子供は大きな声を出して体全体で読むことが本当に好きであり、幾らでも読みたがる。その姿は本当に可愛い。さらに話し合いの中で様々な子供達の経験が出され、イメージ化がなされていくことが「言葉」の裏付けとなって「言葉」が各々の子供達の中で膨らんでいく。生きた「言葉」が獲得されていくのである。アチーブメント方式のテストではとても計りようのない国語の授業ならではの素晴らしい時間である。

この授業終了5分前にはこの詩を暗唱してもらうために、黒板に書いておいた詩を一斉に読んでもらいながら少しずつ消していった。子供達は覚えようと一生懸命である。6回目を読むときにはすべての文字が消えた。子供達にとってはかなりの緊張感であったであろうが、一つの詩が子供達のものとなった。

古来、日本人は言霊の存在を信じてきた。一つの存在するものとしての言葉が人に様々な関わりあいを持ち、影響を与えるものであると。この詩のなかに流れているたんぽぽの、あのちいさな種の一つ一つの命の素晴らしさへの思いは、子供達の心にこ

こちよきものとして残ってくれたであろうか。最後の行の「川に おちるな」について考えていた時、一人の腕白坊主が「この人優しいな。」とつぶやいた。この時の学級の柔らかい雰囲気から考えても多くの子供達は同じ様に感じていたようであった。この子供たちがこれからたんぼを見た時、種を飛ばした時、飛んでいくのをみた時何を感じ、何を思うのであろうか。そして心の中で何が育っていくのであろうか。

あの小さな可愛い柔らかい体と同じ様に、本当に柔らかい心を持った子供達。幼いゆえにアニミズムの世界にいるとか、外界に対する認識力がまだ未分化だからだとか割り切って子供を理解しようとして結局分からなくなっている私たち大人より、子供達の方がなんのてらいも無く素直に対象に心を寄せていく。子供達の心の中に温かい豊かな「言葉」が広がり、それが自然を愛でる心を育てていく。そのような「言葉」の教育をして行きたいものである。

👤 共学び 👤 市民と行政 👤 共育ち 👤

環境保全の集いー環境教育分科会から

赤尾整志

・貴重な自然を守る自然保護運動に始まった環境教育のひとつの流れは、今や身近な里山をふくめて「まちづくり」のための環境学習へと発展しています。

「まち」という環境の主体は、そこに住む人々です。したがって、「まち」を保全し発展させる責任のある行政は、住む人々の意志と無関係であるはずがありません。ところが意外と、お互いに無関係にすら見えるような独り歩きの「まちづくり」をよく見かけます。毎年2月に開かれる土・水・空気・生き物を考える環境保全の集い（第6回）の環境教育分科会では、こういう点に焦点を当てて、先ず市民と行政が息の合ったモデル的实践事例として八尾市の生活排水アドバイザー制度について、市民ボランティアと環境行政の双方から話してもらいました。

・八尾市では市民と共同で生活排水対策を地域に浸透させるために、生活排水アドバイザーを市民の中から募りました。平成5年は19人の市民ボランティアがこれに参加して活動し、子どもたちと一緒に川に入り生物観察やCODのバックテストをして、小学校の環境授業の一端を担ったり、住民と市役所職員が力を合わせて木炭を利用した水質浄化施設づくりをしたりして、川を美しくしました。また地区自治振興委員会主催のイベント“郡川ホタルサミット”で「ホタル飛ぶ川よみがえれ」というテーマのペープサート（紙人形劇）を企画、アドバイザーと環境部職員が共演して好評をばくし、地域住民の啓発に効果を挙げました。これがきっかけとなって「八尾の川を考える会」が誕生しました。

・つぎに市民と行政のあいだに問題がある場合、何がじっくりいかないのか、分科会の出席者からいろいろな体験談や事例がだされて、フリーな議論が行われました。その一つの例として淀川ネイチャークラブの実践が話題となりました。それは同地区の保健所の支援で淀川の自然観察ポスターを制作し、地区の小学校を通して子どもたちに呼びかけようとしたところ、野外における学習よりも安全の方が優先的に重視されてうまくいかなかった。このことは管理主義的な風潮が現代社会の中に根強くあるということと、もうひとつは自然の中で遊んだり自然から教えられたりする原体験をあまりもたない、今の小学生の親や教師にも問題があるのではないかという意見もありました。

・このような問題を解決するためには今、何が必要なのでしょう。議論は次の段階に進みました。つまり市民が行政と一体となって環境をよくして行くと言っても、第1に市民自身が自主的に学習をし主体的に行動できるようになることが大切であると思われます。しかし正直に言ってまだ1人1人のレベルではそれだけの環境マインドをもつまでにはいたらず、知識技能にも限界があります。そうかといって問題意識をもって活動している市民団体であるNGOも、現在では体質的にいってどこまで力量があるかは疑問です。そこでさらに次の問題点として、市民やNGOの取り組みと行政の役割との関係が議論されました。

・今多くの自治体では、環境保全やまちづくりについて市民に対する啓発、一部の自治体では支援する政策を進めています。しかしその実態を注意して見ると、やたらに「環境にやさしい〇〇」といった言葉だけの独り歩きに終わっているように思われるものが多いのではないかと、という意見が出ました。そしてその1つの原因として注目されたことは、行政の情報収集が不完全なために、的を射た施策に欠けるという意見です。逆に言うと地域社会の主体たる市民にも、行政に対する情報発信能力やシステムが未成熟であると言うことができます。この関係はまた行政とマスコミ、マスコミと市民の関係についても言えるのではないかと、という指摘もありました。

・地域社会においては環境教育は誰がするものでもなく、また環境学習はすべての立場の人々がやらねばならないことだと考えられます。環境をよくして行くためには、なぜ市民・行政（自治体職員）が一体化しなければならないのか、その一体化の意味が、この集会の環境教育分科会の実践報告や議論を通して少しばかり見えて来たような気がしました。5月の環境教育学会全国大会では、これまでの学会の場では個々の発表はあってもみなで討論されなかった、自治体職員と市民・学校教員らによる共同の意見交換（サテライト・シンポジウム）が予定されています。地方自治体の環境教育について、もっと関心を深めることができるよい機会になると思います。

ネットワーク

あなたのまちのツバメを探して

ツバメ調査のおねがい

◇調査員

小・中・高校生や教師・一般市民ほか

●詳しい手引きは

まちの探検ブックレット-2

「あなたのまちのツバメを探して」

頒価 600円 3月1日発行

◇調査の内容 (94年から毎年おこなう)

1. 初認調査 2-3月
2. 分布調査 4-10月

◇調査の範囲

大阪府とその隣接地域

◇大阪のツバメを見つける会◇

事務局 淀川ネイチャークラブ気付

〒532 大阪市淀川区木川西1-4-17 プラネット内

TEL (06)833-9129 FAX (06)304-5885

大阪自然環境保全協会の行事

●里山柴刈り一日体験

〈とき〉4月29日(土)

〈会場〉府立能勢野外活動センター

●白山雪山アニマルウォッチング

〈とき〉3月26日(土)~27(日)

●千草会

第20回信貴山

〈とき〉3月27日(日)

〈集合〉近鉄信貴線服部川駅10時

(近鉄大阪線河内山本駅で乗り換え)

〈コース〉水呑地蔵~十三峠~高安山~信貴山~近鉄信貴山下駅(生駒線)

第21回河内長野

〈とき〉4月3日(日)

〈集合〉南海千早口駅10時

〈コース〉千早口駅~寒ノ神~延命寺~三日市町駅

〈持ち物〉弁当、筆記用具、あれば図鑑、ループ

〈参加費〉百樹会に同じ

〈問合せ〉田中光彦0720-79-2328

大阪府等に生息するツバメの住所録をつくります。
ツバメの生息を調べて、環境の変化を探ります。
あなたのまちの「ツバメ情報」を知らせてください。

こどもと市民のツバメの調査

私たちは大阪市淀川区(人口16万人、面積12平方キロ)のツバメに関心をもち調べてきました。昔からこの地域に住んでいる人は、今でもツバメはどこにでもいると信じられているようです。しかし、4,300人の小・中学校のこどもたちに手伝ってもらった調査結果はツバメの巣45、子育てした巣25(±)でした。

私たち人間は気づかずにツバメも住めない都市環境をつくりだしているのではないのでしょうか。

1992年・淀川ネイチャークラブの報告の要旨

ツバメをとおして環境調査にご協力をお願いします。

初認日調査

1. いつ: 月 日 時頃
2. どこで: 市 町 丁目
3. まわりの様子(例えば田とか)
4. 羽数: 羽
5. みた人: 名前 連絡先 TEL

切りとってハガキに貼り、「大阪のツバメを見つける会」へ

春休み山遊舎の集い

自然教室

午前中は牧場で山羊の赤ちゃんとふれあって お昼のごはんづくり 午後は自然観察会をします

〈日時〉4月17日(日) 申込は4月10日迄

〈参加費〉大人1,500円 こども1,000円

上記いづれも

〈申込問合せ〉山遊舎Tel FAX074548-2477

〒637-02奈良県北葛城郡当麻町

新在家389

※親子での自然のふれあい等について遠慮なく御相談下さい



講演会 「地球環境について」

“環境の日”の誕生(1994年6月5日)を記念して講演会を下記のとおり開きます。

記

日時：6月5日(日) 13:30～16:00

会場：大阪市立弁天町市民学習センター 第一会議室 ☎06-577-1430

大阪市港区弁天1-2-2-700 弁天町駅前 オーク2番街7F

講師：交渉中

定員：16名 往復はがき、またはFaxで、協会まで申し込んでください。

参加費：1000円 当日お支払いください。

主催：(株)大阪自然環境保全協会 ☎06-374-3376 Fax 06-374-0608

●531 大阪市北区豊崎2-4-5

関西ECOMAILは、

関西の学会員の皆様に、ワークショップのお知らせと環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

また学会員以外の方々の、環境教育に関心を持っておられる方や実践をされている方とのコミュニケーションも広く回りたいと思います。

年間1000円の通信費をいただきましたら、ワークショップの案内とECOMAILを送らせていただきます。(通信費振込先…日本環境教育学会関西支部=郵便局=「大阪9-37886」)【5月から番号が変換されます→00990-5-37886】



環境ワークショップの話題提供者(報告をお願いできる方)を募集しております。また、どのようなテーマでのワークショップ開催が望ましいか、あるいは講演以外にどのような形式のワークショップ開催が望ましいかなど、関西ワークショップに対するご希望なども、関西支部事務局までお寄せ下さい。(連絡先はこの頁に掲載)

★ 関西ECOMAILへの投稿を募集しています。

★ また、ネットワーク欄への情報提供もよろしくお願い致します。

関西ECOMAIL 第20号 1994年3月28日発行

通信費 一年 1000円

編集 日本環境教育学会関西支部世話人会

発行 日本環境教育学会関西支部

事務局 大阪教育大学環境科学教育 鈴木研究室気付

〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

電話 0729-76-3211(内線3127)

次回 第21号 1994年5月 日発行予定 原稿締め切り 94年4月30日